



都市と地域の人をつなぐ

里都(さと)プロジェクト

第九回・里都づくりフォーラム開催レポート

【開催日:2012年9月8日(土)】

都市と地域の人をつなぐ
里都プロジェクト

「里都(さと)プロジェクト」について

里都(さと)プロジェクトとは、
「都市」と「地域」との新しいつながり方・関わり方を、実践から学び、考えていくプロジェクトです。

「持続可能な幸せを感じる社会づくり」、重要なキーワードだと思います。
この新しい社会づくりのためには、「都市」と「地域」との新しい関係性を模索し、先行事例に学び、育んでいくことが重要ではないかと考えています。

そこで里都(さと)プロジェクトでは、
「様々な地域で、都市と地域をつなぐ活動を行っている方々」と、
「都市に住み、地域との縁をつくりたいと考える方々」との出会いの場をつくり、
お互いが学びあい、双方にとって新しい関係性を培うきっかけづくりに取り組んでいきたいと考えています。

都市生活者



都市と地域をつなぐ活動を行っている方々



地域生活者



【里都プロジェクト】

- ・メンバー: 大木浩士、有福英幸、濱谷玲子、大熊俊之
- ・主な活動内容: ネットワークづくりフォーラムの企画運営、WEBサイト等による情報発信、地域体験ツアーの企画運営、など
- ・WEBサイト: <http://www.satopro.jp/>
- ・お問い合わせメールアドレス: info@satopro.jp

第9回・里都づくりフォーラム 開催概要

■ゲスト： 小林恭介(こばやしきょうすけ)さん、山口和也(やまぐちかずや)さん

■開催日時： 2012年9月8日(土) 14:00~17:00 (開場 13:40)

■開催場所： ウィルソン・ラーニング ワールドワイド株式会社

■参加者： 17名



◎小林恭介(こばやし きょうすけ)さん

=====

新島村ふれあい農園

=====

村営の新島村ふれあい農園を担当する村役場職員。
新島に興味を持つ島外の人たちと島の農業関係者とのあい
だに入ってコーディネートすることに自分の役割を見出して
いる。



◎山口和也(やまぐち かずや)さん

=====

プロジェクトチーム Nieveメンバー

=====

伊豆七島 新島に拠点を持ち、人と自然と、文明と文化との
多様な関係性を楽しみ続ける。そんなライフスタイルのサン
プルを目指している。

新島村の風景



オープニング

参加者は17名。冒頭、「里都プロジェクト」発起人の大木から、「プロジェクト設立の背景」について説明をさせていただき、自己紹介の時間を設けました。



ゲスト:小林恭介さん、山口和也さんからのお話

第9回フォーラムのゲスト(里都ナビゲーター) お二人から、新島に関わりをもった経緯や新島での取り組みの内容などについてお話をいただきました。



ゲスト:小林恭介さん、山口和也さんからのお話



30年振りのワクワク
「伝える」



■お話の抜粋

【山口さん】

- ・平日は都内で仕事をしています。休日は、2週間に1回の頻度で新島に足を運んでいます。(年間25回通っていることになります)
- ・新島での活動のコンセプトは、「楽しみ続ける」こと。じぶんたちの理想の暮らしをあきらめず楽しく続けるライフスタイルのモデルになりたいと思っています。
- ・最初は新島で採れた野菜を使うカフェを作りたいと当時のメンバーの一人が農協にプレゼンし、畑をお借りしました。突然の見ず知らずの我々の話に半信半疑ながらも応援頂き、通いながら家を探しました。通い続けているうちに、新島での自然や人と近い暮らしがとても未来的に思え、自給的に畑をやりながら、島での暮らしも楽しめるようなライフスタイルを続けたいと思うようになりました。農家の方々の応援に対して、できる範囲でのお返しとして新島野菜をファーマーズマーケットで販売したり、パッケージのデザインを手伝ったりしているうちにだんだんと結びつきが強くなり、今では新島野菜を盛り上げていくプロジェクトに関わらせて頂いています。
- ・現在は、農家さんが作った野菜をファーマーズマーケットで販売したり、野菜のブランディングなどを行っています。

【小林さん】

- ・学生時代、農業に誇りを持って生きている人達に出会いました。カッコいいと心から思いました。これが農業と関わりを持ち続けている原点だと思います。
- ・海外青年協力隊に参加するなど、様々な国に訪問し、その国に住む人達の暮らしに触れました。そこで、物質的ではない豊かさや幸せに触れることができました。
- ・戦争中、特攻隊に所属をしていたお爺さんと話しをする機会がありました。その方と話しをしながら、自分はなぜ生きるのか、自分の使命は何かを考えるようになりました。新島に渡ったのは、そのようなことを考えている時期でした。
- ・新島に住んだ私は、「島の人になろう」と必死でした。しかし、「外から来た自分ならではの役割」があることに気づき、自分の立ち位置が定まりました。
- ・新島には水田がありません。地面が砂質で、水がたまらないのです。しかし畑はできます。現在、たくさんの種類の野菜を生産しています。
- ・新島では古くから地域の資源を活用した農業が続けられてきました。昭和30年ぐらいまでは、自給自足的な生活がベースとなっていました。
- ・食料として生産してきた「あめりか芋」を換金化できる農作物にするため、焼酎プロジェクトが生まれました。他にも様々な取り組みが生まれています。その大きな原動力の一つになっているのが「Nieve」です。

参加者同士の対話と質疑応答

小林さん山口さんのお話を聞いて、「印象に残ったことや質問してみたいこと」等をテーマに参加者同士の話し合いの時間を設けました。



新島「夢と課題」

ゲストのお二人から、「新島の畑の有効活用」について構想中のアイデアや課題についてお話をうかがいました。



参加者同士の話し合いとアイデアの共有

「使用されていない新島の畑の有効活用」をテーマに、参加者同士で話し合いを行いました。出されたアイデアや情報は、全員で車座になり情報共有を行いました。



エンディング



アイデアの共有の時間では、ユニークな施策案が多数共有されました。



新島の民宿「SARO」で働いていた藪下さん(写真中央)からもメッセージをいただきました。



今回のお土産は、新島野菜を使ったドレッシングです。



小林さん、山口さん、ありがとうございました！